

1. 活動概要

- (1) 名称：アメリカの「シティズンシップ教育」に関する調査および現地学生との意見交換会
- (2) 期間：2015 年 8 月 19 日（水）～8 月 30 日（日）
- (3) 場所：アメリカ合衆国カリフォルニア州（サンフランシスコ周辺）
- (4) 参加者：主に米国およびアジア諸国の大学生など（全日程合計 15 名程度）
- (5) 概要：2015 年 6 月に参議院本会議で可決成立した「改正公職選挙法」に伴い、日本では、来夏の参議院選挙から、選挙権年齢の引き下げ（18 歳選挙権）が導入されることになったことを受け、若者の政治的リテラシーや社会参画意識を育む「シティズンシップ教育（主権者教育）」の充実が急務とされている。これまで学校現場を中心に、シティズンシップ教育の研究実践に取り組んできた私は、昨年度にシティズンシップ教育の先進国とも言うべき諸外国の一つであるドイツを訪れ、現地調査を実施。今年度はアメリカを訪れ、シティズンシップ教育を受けてきた若者を中心に聞き取り調査を行うとともに、アジア諸国から来た大学生を含め、自らの研究・実践について意見交換会を行い、様々な知見や提案を得られた。

2. 活動報告

今回の活動で最も印象に残ったことは、自らのこれまでの研究・実践について、英語でプレゼンテーションをさせていただき、質疑応答も含めて、研究・実践について、アメリカやアジア諸国の大学生から、シティズンシップ教育や若者の政治参加等の現状や課題について指摘や提案をもらう

“Proaction Café”という試みを行ったことである。私の場合は、過去 6 年間にわたり、様々な形でシティズンシップ教育の研究・実践に取り組んできたこともあり、既に“Action”をしているが、そうした活動について、投票率低下の現状から丁寧に説明し、なぜ日本ではシティズンシップ教育が行われてこなかったのか、18 歳選挙権になると何が変わるのか等、政治文化や制度が異なる諸外国の学生に説明することは大変難しく、まさに試行錯誤の連続だった。



その“Proaction Café”の中で、特にアメリカでは、オバマ大統領就任前後に盛り上がった若者たちの政治に対する「熱気」は今日までの約8年間で影を潜め、選挙の際に立候補者の演説会に行っても若者の姿が見えなくなってきたこと、さらに、社会起業家の台頭に象徴されるように、「政治・行政サイド」ではなく「民間サイド」から社会課題の解決に乗り出す若者が増えてきていること等、若者の政治参加意識の低下について、現地の大学生たちから、日本にとっても示唆に富む鋭い現状分析や指摘を得ることができた。

そのうえで、日本のシティズンシップ教育の充実に向けて何が必要なのか、自由に記述して模造紙に貼っていただいた。日米共通の若者の認識としては、「政治は難しく、自分にどう関係しているのか、若者には分かりづらい」という点が挙げられ、「実践的な内容を組み込んだ教材を作るべき」とか、「若者が政治参加をすることで政権交代等を実現した事例をわかりやすく伝えるべき」等、様々なアイデアを提案していただいた。これまでの私の研究・実践でも学校で使用する教材を立案した経験があったが、アメリカの学生の提案を受けて、多くの若者に対する政治参加への「共感」を生む教材作りの必要性を痛感することとなった。

3. 今後の研究への活用について

今回の活動では、主にアメリカ合衆国でのシティズンシップ教育や若者の政治参加等の現状について、現地の大学生からのヒアリング調査を実施し、シティズンシップ教育の実践に資する意見交換や提案を多く得ることができた。特に、“Proaction Café”で指摘があった「政治がどう自分に関係しているのか、若者の理解と共感を生む教材」については、米国での調査にヒントを得た「新型のシティズンシップ教育プログラム」と併せて、帰国後に作成に着手している。実際に日本国内の高校と連携して、修士論文にも反映できるように、学校現場での実践を通じた研究に取り組んでいく予定だ。将来的な学会発表も視野に入れ、日本におけるシティズンシップ教育分野の深化に向けて、より一層尽力していきたい。

最後になりましたが、湘南藤沢学会の「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」からいただいた助成に、厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

